

平成27年度第5回 印西市市民活動推進委員会 企画提案型協働事業 公開審査会（第2次審査） 会議要旨

1. 開催日時 平成27年8月21日（金） 午後2時～4時40分
2. 開催場所 文化ホール2階 多目的室
3. 出席委員 粉川一郎委員長、植本崇委員、大和正明委員、安倉史典委員、植村泰則委員、玉井和幸委員、大野定俊委員、浅賀博委員、桑田佳雄委員、牧野昌子委員、奥野不二子委員 以上11名
4. 欠席委員 北村倫子委員
5. 発表者 提案者10名
6. 事務局 松田課長、伊藤、杉山
7. 傍聴者 7名（定員20名）
8. 会議内容 企画提案型協働事業 公開審査会／第2次審査
（公開）
 - （1） 開会
 - （2） 委員長あいさつ
 - （3） 印西市市民活動推進委員の紹介
 - （4） プレゼンテーションの進め方と審査方法等の説明
 - （5） プレゼンテーション
 - 提案1 道作古墳群歴史広場の維持管理事業
（特定非営利活動法人小林住みよいまちづくり会）
 - 提案2 不要になったおもちゃの回収とリサイクル利用
（印西おもちゃの病院）
 - 提案3 竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業
（特定非営利活動法人エコネットちば）
 - 提案4 印西市木下地区歴史講座
（木下まち育て塾）
- （6） 審査結果発表・講評
- （7） 閉会

9. 審査記録

（5）プレゼンテーション

※特定非営利活動法人小林住みよいまちづくり会の発表者が不在のため、発表順を変更し、提案2からプレゼンテーションを行った。

提案2 不要になったおもちゃの回収及びリサイクル利用（印西おもちゃの病院）

事務局説明

・大和委員が印西おもちゃの病院の会員であることから、規程に基づき提案2の審査

には加わらない旨を説明した。（大和委員退席）

提案者の発表

- ・パワーポイントを使い、提案の企画概要及び団体の過去の実績について説明が行われた。

質疑応答

（質問）素晴らしい修理実績だが、修理件数が増えても対応できるのか。

（回答）会員は13名いるが、技能士1級や整備士1級の資格をもったメンバーが集まっているので、ICチップを除けばほとんどが修理可能である。

（質問）団体の活動目的のひとつに老後の生きがいとあるが、一般の方が入ってきて修理の技術を習得できるのか。

（回答）技能ドクターによって十分な事前研修が行われるので、人材育成については問題ない。提案が採択されれば会員は増やしていきたいと考えている。

（質問）無償労働力の算定や回収箱の設置は、どのような積算根拠に基づいて算出されたのか。

（回答）これまで不要なおもちゃとして回収できたのは3年間で25件である。あまり集まらなかったのは広報が足りなかったためと認識している。回収量はやってみないとわからない部分がある。回収箱の設置数は設置できると思われる市内公共施設の数から算出した。無償労働力については技術者が揃っているので1時間1,000円で積算した。訂正した方がよいのであれば最低賃金を基準に訂正してもよい。

（質問）賃金の単価について質問したのではなく、需要の見込みがわからないと市が予算を立てることが難しいと思われるので確認した。

（回答）了解した。

提案3 竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業（特定非営利活動法人エコネットちば）

提案者の発表

- ・パワーポイントを使い、提案書に沿って過去の実施状況と事業計画について説明が行われた。

質疑応答

（質問）課題があるとのことだが、環境維持の最適化に向け必要な取り組みは。

（回答）自然が相手なので、そのときどきで様々な対応が必要である。調整池の機能を保ちつつ、水鳥が訪れる環境を維持していく取り組みをうまく両立させていくことが重要だと考えており、すべてを一挙に課題解決するというような考えはもっていない。

（質問）雑草対策のひとつとして、例えば太陽光パネルを設置するなど取り組みにも

様々な方法があると思うので、いろいろ試していただきたい。

(回答) われわれとしては景観が第一だと考えているが、調整池機能との兼ね合いもある。環境維持には雑草類の繁茂もある程度必要との考え方もある。どういった方法が最善かそのときどきの状況を見極めながら実施していきたい。

(質問) 事業を長く継続する中、団体や活動の継続に向けなにか取り組んでいることはあるか。また、団体の目的のひとつである環境教育や地場産業の活性化といった活動は行われているか。

(回答) 当初のメンバーから数名増えている他、25名ほどの賛助会員に会費やボランティア活動で協力をいただいている。メンバーの高齢化は当然活動歴の分だけ進んでいる。環境施策としては、休耕農地の草刈りを数件行っており、そうした土地に作物を植えるような動きは進めている。

(質問) NPO法人の事業を多角化していくとのことだが、会員を増やして事業を拡大していくような考えはあるか。

(回答) 会員の高齢化も進んでいる。拡大していくよりは団体の身の丈にあった活動に傾注していきたいと考えている。

(質問) 経費の内訳書に計上されている工事費の費用の流れについて確認したい。

(回答) 作業と機械の持ち込みに対し手当を支払っている。無償労働力分に充てている雑草除去などについては完全にボランティアで行っている。

提案4 印西市木下地区歴史講座（木下まち育て塾）

提案者の発表

- ・パワーポイントを使い、提案書に沿って過去の実施状況と事業計画について説明が行われた。

質疑応答

(質問) 歴史講座以外に土蔵を利用する機会はあるか。また、コミュニティカフェのような活用方法は検討しているか。

(回答) 土蔵の1階は展示スペースとして定期的に開放している。2階はフリースペースとして、歴史講座以外にはつるし雛の製作講座や若干の費用徴収を伴う貸出しを行っている。古い土蔵のため水回りや空調などが整備されておらず、カフェなどでの活用は難しい。

(質問) 新しい参加者の取り込みに向けた工夫を行っていただければ教えてほしい。また、過去の事業と今回の提案との違いは何か。提案書には来年度の提案から事業を刷新するとある。

(回答) 最近いくつかの新聞で団体の活動を取り上げてもらっている。今後はテレビへの露出も考えている。事業の刷新については、今年度の提案までは同じよ

- うな計画となっている。5年目なので、今回の提案を一区切りと考えている。
- (質問) 経費の半額近くは印刷製本費だが、この積算根拠について確認したい。
- (回答) 印刷費のほか、編集やデザイン料も含めて単価を算出している。
- (質問) 熱心な参加者の組織化や取り組みの支援策があれば教えてほしい。
- (回答) 今年度はそうした参加者を対象に木下の歴史をテーマとする研究会を立ち上げる予定である。
- (質問) 土蔵の維持管理はどのように行われているか。
- (回答) 会員がボランティアで草刈りなどを行っている。
- (質問) 建物自体の維持管理は。
- (回答) 土蔵の修繕はまちづくりファンドを活用して行った。通常の維持管理は1級建築士の資格をもつ会員などの協力で、ボランティアにより行われている。

提案1 道作古墳群歴史広場の維持管理事業（特定非営利活動法人小林住みよいまちづくり会）

発表者の遅刻についての協議

- ・発表者がプレゼンテーション開始時刻に遅れて入場したため、提案資格について協議が行われた。
- (発表者説明) 市から通知された開始時間を勘違いした。申し訳ない。
- (事務局説明) 実施要領に遅刻による失格要件の記載はない。開催通知で、公開審査会に参加しない場合は辞退とみなし審査対象外と記載している。
- (委員長提案) 提案者が第3次審査に進んだ場合は、遅刻理由と改善計画を後日文書で提出する条件で審査を実施することを提案する。(委員全員の同意及び提案者の了解により了承された。)

提案者の発表

- ・パワーポイントを使い、提案書に沿って今年度の実施状況と事業計画について説明が行われた。

質疑応答

- (質問) 古墳群や維持管理事業の広報・周知活動について、市との役割分担はどうなっているか。
- (回答) パンフレットの作成は、専門的な内容を含むことから市担当課の生涯学習課が行うことになった。団体のホームページや瓦版の内容は団体で素案を作成し、内容を生涯学習課に確認してもらうようにしている。地域のミニコミ誌の活用も検討している。
- (質問) 提案書に市が経費を大幅に削減できると記載されているが、この点について確認したい。

(回答) 団体としては、印西市シルバー人材センターの積算根拠で草刈費用が1㎡あたり44円から66円となっており、その最低価格を算出根拠としたことから、通常の維持管理業務に比べ安価であると判断した。市の経費に対する考え方は、協議の中で確認した内容を提案書に記載しただけである。市が単独で全体の維持管理を行うのに比べ、ボランティアを含めた協働事業により、ひとつのプロジェクトとして両者にメリットがあるものと考えている。

(質問) 今年度の実施事業で刈り草等の焼却量が当初の見込みを大幅に超えたため、提案書では焼却に係る費用を倍に増やしたとのことだが、労働力は増やしていない。通常であれば作業量も同時に増えると想定されるが、この点をどう考えているか。

(回答) 雑草や枯れ枝の発生量を正確に予測することはできないが、今年度の状況から処分費は増やす必要があると考えた。労働力は変える必要がないと考えている。

(6) 審査結果発表・講評

粉川委員長の進行のもと、各委員の評価を集計した審査結果を次のとおり発表した。

【審査結果】

提案	提案名 (提案者)	○	△	結果
1	道作古墳群歴史広場の維持管理事業 (特定非営利活動法人小林住みよいまちづくり会)	1 1	0	可
2	不要になったおもちゃの回収及びリサイクル利用 (印西おもちゃの病院)	4	6	否
3	竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業 (特定非営利活動法人エコネットちば)	1 1	0	可
4	印西市木下地区歴史講座 (木下まち育て塾)	9	2	可

審査結果発表後、提案ごとの講評として、粉川委員長と牧野委員が模造紙に貼りだした各委員の意見を集約して紹介した(下記提案1～提案4参照)。最後に粉川委員長が全体の講評を行い、市民提案型の協働事業と協働を取り巻く環境は近年大きく変化しており、より切実なニーズに基づく取り組みが全国的に増えている傾向にあることを指摘し、印西市でもそうした提案が増えていくことを期待するとまとめた。

提案1 道作古墳群歴史広場の維持管理事業（特定非営利活動法人小林住みよいまちづくり会）

【各委員の意見】

協働への期待

- ・文化財の維持管理のために必要な事業だと思います。地域の住民の皆さんが携わることで、よい環境が維持できることを期待します。
- ・文化財の保護は市としても重要な施策であり、引き続き御努力よろしく申し上げます。
- ・道作古墳群の維持管理事業は、子ども達や多くの印西市民が身近に歴史を感じたり、又、魅力ある憩いの歴史広場に変えていける、そんな広がりや、この活動には感じられる。
- ・印西市古墳群の維持を歴史広場として市民にも親しまれる場所として管理する事は、協働事業の主旨に合致していると考えます。
- ・新たに周辺道路管理を提案され、大変だとは思いますが、がんばって下さい。
- ・先週歴史広場を見に行ってきました。広場の草刈、整備はよくされていました。周辺の散策コースが少し整備されれば魅力ある市民の広場になると思います。

広報充実

- ・広報活動に関しては、市と十分に協力し、内容の充実を図ると共に、広く市民に広報できるよう努力して頂きたい。
- ・市との役割分担についての検討、協議が必要と思われる。特に広報活動については、協力して実施していただきたい。
- ・広場の案内板を工夫して下さい。団体独自のわかりやすい案内板を作して下さい。

コストの根拠

- ・事業計画上、Cost は重要な Factor です。あくまでも提案者の意識で計画を立案することが、原則だと思って頂きたいと思います。
- ・協働のメリット、コストダウンのメリット、他の事業者との比較なども行い、より論理的に説明してもらいたい。

事業計画のブラッシュアップ

- ・協働事業として妥当であると判断するが、事業計画、体制には疑問が残る。
- ・道作古墳群の維持管理事業とイベントは「小林鯉のぼり大会」と「古墳の春の見学会」に絞った方がよい。イベントが多過ぎ、事業の焦点が絞り切れていないし、今後、このままだとさらに予算がふくらむリスクを感じる。
- ・市の道作古墳群整備基本計画と一体化した活動か。
- ・NPOとしての、この事業に関する将来的展望は。
- ・各イベントの参加者数は。

提案2 不要になったおもちゃの回収とリサイクル利用（印西おもちゃの病院）

【各委員の意見】

期待

- ・おもちゃの修理、及び清掃等を行いリサイクル品として甦らせることにより、子ども達に「物を大切にする心」を育てる事に貢献できる協働事業だと思う。すばらしい。
- ・物を大切にする心の醸成、物作りを体験することで「作る事の大事さ」を実感できる事業だと思います。是非頑張ってください。
- ・子供たちとの会話を進めるためにも子供たちの場所に出向いた修理事業等を実現するのも良いのでは。
- ・課題が地域課題というより社会性の強い課題です。20ヶ置くだけでは、施設数からすると少ないです。3R推進がんばってください。

広報活動をもっと

- ・活動認知の方法がポスターだけで充分ですか。
- ・市と協働するよりも、自主事業として、広報力を強化することで、十分な成果につながるのではないかと。

協力のメリット？

- ・事業の意義は理解できますが、修理したおもちゃの児童館寄贈だけでは積極的な協働のメリットが少ないと思います。
- ・行政が協働のパートナーとして必要である理由はどこにあるか。行政がお金を出す必要性がうすく感じられる。3RのPRに本当になるのか？
- ・市がかかえる課題との整合を図る必要があると思います。

市民ニーズ？

- ・不要となるおもちゃの数などが未知数であるため、事業の実施の必要性について疑問が持たれる。不要おもちゃの数の把握を調査するなどもう少し準備が必要である。
- ・過去3年間、回収された不用品のおもちゃの修理不能の件数は、持ち込まれたおもちゃ全体のわずか3%でしかない（驚異の完治実績）。今後、修理件数が増えても、この完治実績を維持できるのか？
- ・団体としての活動機会、事業規模の拡大についての熱意は感じましたが、市民ニーズの規模の把握が不明瞭ですので、協働事業としての採用は難しいと考えます。団体の独自事業としての取り組みが相応しいのではないのでしょうか。
- ・良い企画であると思うが、未知数（寄贈者数等）の部分が多少、懸念されるが、1年間の実績を見て、継続するかどうか判断し、今回は企画が妥当であると判断する。
- ・回収率の目標を明確にした方が良いのではないのでしょうか。

提案3 竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業（特定非営利活動法人エコネットちば）

【各委員の意見】

実績の評価

- ・大変おつかれ様です。今後とも、市発展の為、がんばっていただければと思います。
- ・ひょうたん島広場は四季を通した花畑作りやイベント等により、年々、住民の関心が高まり、又年を追うごとに訪れる人々が増えていると思う。
- ・皆さんの努力のおかげで、気持の良い水辺として利用させて頂いています。これからも憩いの場として活用できる様頑張ってください。
- ・NPOが整備し育てている広場であり立派な事業だと思います。植栽、花のデザインに市内のアーティストの協力を取り入れると独創的でオシャレな広場になります。
- ・地域や市民のニーズが高い事業であり、7年継続が問題になっているとは思いますが、協働事業として妥当であると判断する。
- ・地域の憩いの場として、今後も地域の活性化につながる事業と考えられるので、是非がんばってください。

現状の更なる分析

- ・市の役割分担は、経費負担のみのように思えるが、協働事業としての新たな展開に期待したい。
- ・提案内容、花畑の整備、草刈、ごみ清掃となっているが、それ以外の提案はないのか。
- ・事業は継続可能なものなのか。調整池自体の存続性はどうか。
- ・イベント参加者の人数と参加推移は。
- ・誰れの為の環境保全なのか。地域エゴにはなっていないか。

未来への展望

- ・協働事業として内容的には問題はない。しかし長年にわたり継続されており、企画提案型協働事業として毎年審査してゆくしくみにはやや疑問を感じる。長期的な対応について市と継続的に協議し新たな対応を検討して頂きたい。
- ・每期、每期、調整池と周辺の定期的草刈、花畑の整備、排水口のごみの除去等同じ維持管理を続け、每期のコストも膨大である。アスファルトの通り路をつくるとか、翌年の草刈り面積（今は1万㎡強もある）を減らすとかして、次期以降の協働事業の夢がたとえ少しでも欲しいと思う。
- ・ドラスティックなコスト削減策はないか？
- ・課題解決に向けて具体的な方策を考えてみて下さい。（どこまでやれば良いのかも含めて）
- ・環境教育的な展開が伴わないと、今後協働する価値が維持できないのではないか。

提案4 印西市木下地区歴史講座（木下まち育て塾）

【各委員の意見】

内容の刷新を！

- ・今日レベルアップを期待したのですが…。住む街の歴史を知り、愛着を持つための活動は、重要だと思います。ただ同様イベントは、他にもあり、今提案内容が今までと変わらないものとなると残念です。
- ・地域ブランドのツールとして、利用できるような新たな展開が必要ではないか。

新たな展開を

- ・これまで実施してきた各講座を冊子等にまとめて、市民にPRする様な取り組みも考えてみてはいかがでしょうか。
- ・地域起しの一端の役割を担えるようになるのか。
- ・地域起しとしての実績と成果は。
- ・観光資源として将来的な展望は。
- ・歴史講座事業に終るのではなく、他の郷土史や市民ガイドなどのグループと協働して、郷土文化、歴史を知ってもらう市民参加型のイベント開催を期待します。

参加者の拡大を

- ・講座参加者の若返り、及びニュータウン等の印西市民の参加者（ネット等の呼びかけによる他地区からの参加者の増加ではなく）をもっと増やしてもらいたいと思う。
- ・特に、新住民の方々にむけて広報を行い、多くの市民と町の歴史をシェアしていただきたい。子どもたちへの講座を開講していただきたい。
- ・人気の高い特別講座の更なる充実を図って頂きたい。特に若い年代層にも参加して頂く企画（親子セミナー等）については、市と協力の上、更なる発展のための努力を継続して行って頂きたい。
- ・講座受講者は、その後、印西市のふるさと意識の醸成とまちの活性化に貢献しているのか。
- ・市外からの訪問者を呼込む手立ては検討しているのか。
- ・参加者が徐々に増加している様な実績となっておりますが、ほとんどがリピータであれば、増えているとは言い難いと思います。底辺を拡大する取り組みを是非進めて下さい。
- ・どんな方法でPRを検討しているのか。

その他

- ・かつて木下河岸と利根川水運により隆盛をきわめた木下の歴史を、明治24年築の吉岡まちかど蔵を軸に、印西市民に広く知らしめる、良き場と機会を提供していると思う。
- ・印西市の歴史を語る上で、かかせない木下河岸・町家等の文化資産を市民協働事業として講座を進める事は、重要な意味のある事だと考えます。
- ・吉岡家の知名度には疑問はあるが、参加者、企画とも協働事業として妥当と考える。

(7) 閉会

次回の公開審査会（第3次審査）に向けたスケジュールについて、事務局から事務連絡を行った。

以上